

目次

はじめに

平成23年(2011年)3月11日、宮城県沖を震源とした東日本大震災は東北から関東にかけての広大な範囲に甚大な被害をもたらしました。さらに、平成28年(2016年)4月14日、16日には熊本県で最大震度7を2回観測した熊本地震が発生しました。そして、平成30年(2018年)6月18日には、豊中市で震度5強を観測した大阪府北部地震が発生しました。平成7年(1995年)の阪神・淡路大震災以降、わが国の地震活動は平穏な期間から活発な期間へ移行したと言われており、ここ数年、全国的に頻発している震度6強以上の大地震もそれを裏付けています。そして、歴史上およそ100年から150年の間隔で繰り返し発生している「南海トラフ地震」が発生する可能性がますます高まっていると言えます。

豊中市では、このような大地震の発生がもたらす被害の可能性を予測し、その想定結果などをもとに「災害に強いまちづくり」を進めています。

地震そのものを防ぐことはできませんが、市民のみなさん一人ひとりや家族、まちぐるみでの日ごろからの備えと災害時の適切な対応により、地震の被害を軽減・防止することはできます。

この冊子は、豊中市域に想定される地震と、それに伴う被害予測を明らかにしています。市民のみなさんに、今すべきことは何か、もしもそのような地震が発生したときにはどのように行動すべきかを十分に理解していただき、事前の備えや自主防災活動の一助となれば幸いです。

身近な場所にこの冊子を備え、いざというときのためにお役立てください。

豊中市をとりまく地震環境

身近に潜む内陸直下型地震の可能性	2
必ず発生する! 南海トラフ地震	2
地震の大きさ、揺れの強さ(マグニチュードと震度)	3
想定される震度	4
建物被害の危険性	5
想定される被害	6
液状化の危険性	6

そのとき、助かるために

大地震発生!そのときどうなる	7
大地震発生!そのときどうする	8
場所による行動のポイント	9
時間帯別に防災対策をチェック	10
どこに避難するの?	10
わが家を強くする(耐震診断・改修)	11
家庭でできる安全対策	12
火災から身を守る	13
家庭内の日ごろからの備え	14
防災は家庭から	15

そのとき、地域で守るために

自主防災組織の必要性	16
日ごろ、自主防災組織は何をするの?	17
災害時に、自主防災組織は何をするの?	19
自主防災組織の活動を継続させよう!	20
自主防災組織における活動上のポイント	21
要配慮者を支えよう!	22

そのとき、役に立つ知識

家族間の連絡方法(安否確認)	23
応急手当の方法	24
緊急地震速報	25

台風や集中豪雨のとき

風水害への備え	26
---------	----

地震防災マップ

—揺れやすさや避難場所などを確認しよう!—

避難場所一覧

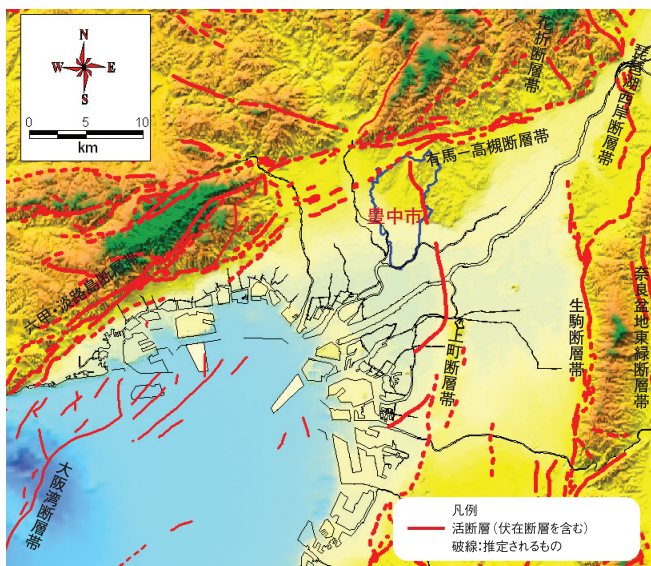
防災用サイレンで 災害をお知らせします

※この冊子中における上町断層帯地震、有馬—高槻断層帯地震、六甲・淡路島断層帯地震とは、それぞれ上町断層帯、有馬—高槻断層帯、六甲・淡路島断層帯が活動することによって発生する地震を表しています。

豊中市をとりまく 地震環境

身近に潜む内陸直下型地震の可能性

- 阪神・淡路大震災を引き起こしたような内陸直下型地震は、活断層が動くことによって発生します。
- 活断層は、過去に繰り返し動き、現在も活動する可能性のある断層のことで、国内に約2,000あることが確認されています。また、地震が発生するまでその存在が分からない伏在断層も数多くあると言われています。
- 豊中市周辺にもいくつかの活断層が分布しています。その中で、最も甚大な被害をもたらすと予測されている活断層が「上町断層帯」です。これは、国の調査で地震の発生する可能性が高いグループに属しています。



※活断層の位置は、「近畿の活断層」(岡田・東郷編.2000)などによる

想定地震	今後30年以内の地震発生確率※
上町断層帯地震	2~3%
有馬-高槻断層帯地震	ほぼ0~0.04%
六甲-淡路島断層帯地震	ほぼ0~1%
南海トラフ地震【海溝型地震】	70%~80%
兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災) 【内陸直下型地震】	0.02~8%(発生直前の評価)
熊本地震【内陸直下型地震】	0%~0.9%(発生直前の評価)

※地震調査研究推進本部発表の長期評価(令和2年(2020)1月)

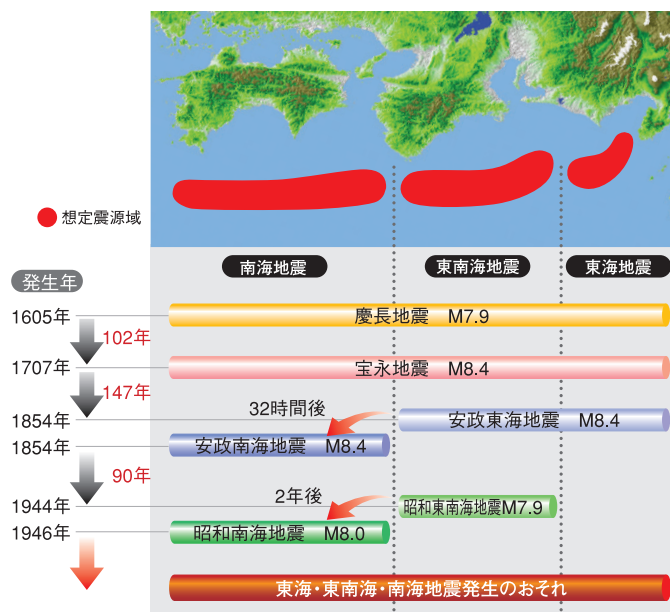
地震発生の可能性について

南海トラフ地震は約100年に1回の周期で発生しますが、内陸直下型地震の発生間隔は数千年に1回です。これが、両地震の発生確率が数十%と数%と1ケタもの差がある理由です。しかし、身近に多数の活断層が分布し、その活動も南海トラフ地震の発生が近づくと活発になると言われていることから、このことだけで内陸直下型地震の発生する可能性が低いと考えるべきではありません。

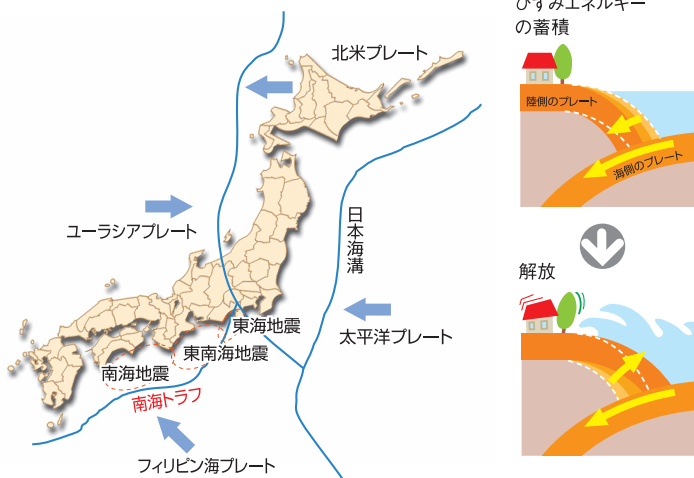
必ず発生する!

南海トラフ地震

- 西日本の太平洋沖(南海トラフ)を震源域とする巨大地震が、過去に100年から150年の間隔で繰り返し発生しています。その震源域によって、南海地震、東南海地震、東海地震と呼ばれています。
- 3つの地震は、同時発生あるいは連続的に発生する可能性もあります。
- 南海トラフ地震は、前回の発生から70年以上が経過し、今世紀前半に発生する可能性が極めて高いとの指摘もあります。



海溝型地震を引き起こす南海トラフ



南海トラフ地震の揺れ

南海トラフ地震は遠くで発生する巨大地震なので、ゆっくりとした大きな揺れが数分以上続くことが予測されます。また、津波も発生する見込みです(大阪には地震から1~2時間後に到達)。